

発行：熊谷市立江南文化財センター

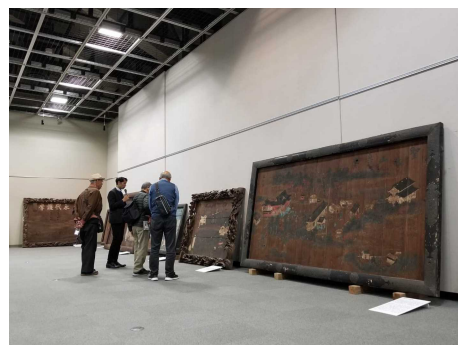
TOPICS

妻沼聖天山御本尊御開扉記念 文化遺産フォーラム・絵馬展

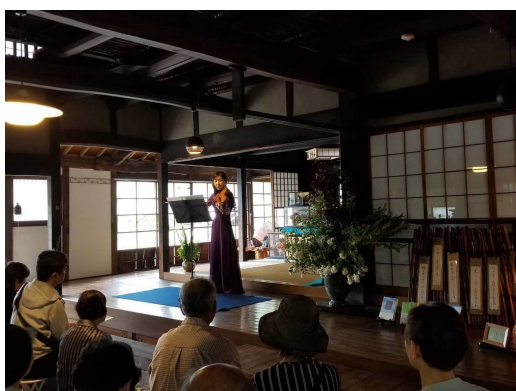
4月、熊谷市妻沼にある妻沼聖天山の御本尊で重要文化財の「御正躰錫杖頭」が御開扉されました。その一般公開に合わせて、境内の石舞台で「妻沼聖天山の信仰と文化財遺産の未来をめぐって」と題した記念フォーラムが開催されました。同寺院主の鈴木英全氏と、歓喜院聖天堂の「平成の大修理」で彩色復元の工事などを担当した株式会社小西美術工芸社社長のデービッド・アトキンソン氏との対談が行われ、参拝者ら約150人が耳を傾けました（写真上）。

アトキンソン氏はイギリスのオックスフォード大学で日本学を学んだ後、金融アナリストを経て、同社の社長に就任。現在は、観光振興や文化財活用に関する政府アドバイザーなども務めています。対談では、アトキンソン氏は「文化財の保存技術の継承を大切にしたい上で、自由な発想による保護事業が必要。妻沼聖天山が全国的なモデルになる可能性がある。」と、地域の特性を生かした保存と活用を呼びかけました。フォーラムの様子は動画撮影し、YouTubeで公開されています。

また、同時期に国宝「歓喜院聖天堂」などに寄進された絵馬や奉納額を展示する特別展「妻沼聖天山の絵馬展」を、妻沼展示館（熊谷市妻沼東1丁目）で開催しました（写真下）。熊谷に画室を構えた女流画家の奥原晴湖（1837～1913）が記した奉納額や、文人・政治家として活躍した山岡鉄舟（1836～1888）が揮毫した額、明治期の妻沼聖天山境内を描いた絵馬など、江戸時代後期から昭和期にかけて奉納された約40点を展示し、観覧者は妻沼聖天山の歴史に想いを馳せていました。（山下）



「長島記念館・邸宅」での文化財指定記念フォーラム



5月18日（土）、市の文化財「名勝」に指定されたことを記念したフォーラムが「長島記念館・邸宅」で開催されました。旧埼玉銀行（現在の埼玉りそな銀行）の会長を務めた長島恭助（1901～1992）氏の生家として知られる同施設。敷地内には江戸時代後期に建立された母屋や長屋塀をはじめ、大正時代に栃木県から産出された大谷石を組み上げた石蔵などが保存されています。1993年に長島記念財団が設立され、翌年には邸宅の建造物群や庭園の保存を目的に、長島家が収集した美術品を公開する「長島記念館」としてリニューアルオープンしました。収蔵されている美術品は、国内屈指の価値を誇るコレクション内容で、川合玉堂や横山大観、中川一

政、須田剋太など近代日本美術を彩る名作が並んでいます。新紙幣の肖像画となる「渋沢栄一」の書など複数の作品も展示されています。

2018年から市教育委員会とものつくり大学（埼玉県行田市）は、建造物や関連資料などの調査を進め、高い技術を誇る職人集団が建築や作庭に関わったことや、石蔵の大谷石や木材などをはじめ高品質の原材料が使われたことを確認しました。枯山水様式を生かした庭園や雑木林も四季を通じての景観美が特徴で、地域の政治経済や文化振興に尽力してきた長島家の歴史を今に伝えるとともに、地域を代表する文化財「名勝」にふさわしいと評価され、本年3月29日に熊谷市の文化財に指定されました。フォーラムでは、調査報告「長島記念館の景観と文化史」をはじめ、長島記念財団の田沼利将さんを交えた対談、ヴィオラ奏者の後藤典子さんによるJ・S・バッハ「無伴奏チェロ組曲第1番（ヴィオラ版）」の演奏会（写真）が行われました。（山下）

市内遺跡発掘情報

上前原遺跡発掘調査「縄文時代の集落跡」

5月から6月にかけて、市内千代において、個人住宅建設に伴う記録保存のため、上前原遺跡の発掘調査を実施しました。今回の調査では、竪穴建物跡や屋外に作られた炉・埋甕・溝跡などが確認されました。竪穴建物跡は、大部分が木の根による攪乱を受けていましたが、土器や石器などが多数出土し、炉の一部と考えられる石も確認されました。埋甕は土器が逆さまで出土し、乳幼児の埋葬施設か出産時の胎盤を埋納した胞衣壺（えなつぼ）と考えられます。いずれの時期も縄文時代中期後半～後期初頭と考えられます。これらは、この地域の当時の生活の一部が垣間見える貴重な資料です。（大野）



【埋甕出土状況】

三ヶ尻古墳群第5号墳の発掘調査

令和元年となった5月から、共同住宅建設に伴い、三ヶ尻地内で現存する三ヶ尻古墳群第5号墳の発掘調査を実施しました。今回の調査は墳丘の一部を切り崩すもので、推定石室部分は、今後も保存される予定です。墳丘の周辺は樹木に覆われており、当初かなり壊されていると推測していましたが、結果として墳丘の東テラス部分には横7m×縦3mの範囲で辛うじて葺石が残存していました。周囲には周溝が廻り、石室は南側に開口するものと推測できます。古墳は検出された円筒埴輪から6世紀後半～7世紀初頭の古墳時代後期のものと考えられます。

三ヶ尻古墳群は現在60基程度が確認されていますが、かつては100基程度が築造されていたと考えられています。のちに削平や消滅によって減少していった古墳があることから、後世にこれら文化財を残していくためにも、今後は開発行為と文化財保存との兼ね合いを改めて考えていかなければならないと考えます。（腰塚）

【写真上：葺石の出土状況 写真下：発掘調査作業風景】



連載 くまがやの古墳群

⑮ 道ヶ谷戸古墳群 一水田下に眠っていた古墳群一



道ヶ谷戸古墳群は、妻沼地域道ヶ谷戸地区の福川左岸、妻沼低地の自然堤防上に所在する古墳時代後期に造られた古墳群です。

妻沼西南地区ほ場整備事業（農地の土地区画整理）に伴う発掘調査により、1基の古墳の存在が確認されています。しかし、その実態は、トレンチ調査により古墳の墳丘の周囲を廻っていた周溝の一部が確認され、円筒埴輪の破片が数点出土しているだけです。その埴輪から、およそ6世紀後半に築造されたと考えられます。

この時期の古墳は、大抵群をなして形成されていると考えられることから、他にも古墳の存在が予想されます。古墳が発見された箇所から北へ約100mの路肩には、古墳の石室石材の可能性が考えられる角閃石安山岩等の加工石がまとめて寄せられており、他の古墳の存在が想起できます。また、この地区は、古代の土地区画整理である「道ヶ谷戸条里」が施工された場所であることから、これにより、奈良時代には既に古墳群が破壊されている可能性も考えられます。（吉野）

【写真上：現在は水田が広がる道ヶ谷戸古墳群】

【写真下：石室の石材と考えられる路肩の石】

◇クールシェアくまがやキックオフイベント「涼熊祭」

6月2日(日)、熊谷青年会議所主催の「涼熊祭」が熊谷市中央公園で行われました。江南文化財センターでは、「体験／販売エリア」において、市内に所在する遺跡から出土した土器など遺物の展示や火おこし体験を行ったところ、170人を超える大勢の方々にご来場いただきました。特に火おこし体験は、行列ができるほど子供たちに好評で、みなさん熱心に体験していたのが印象的でした。(松田) 【写真：火おこし体験の様子】



◇愛染堂での文化遺産フォーラム

6月8日(土)、熊谷市下川上の愛染堂で新たに熊谷市の文化財に指定された「藍染絵馬・奉納額(尾高惇忠筆)」を一般公開する文化遺産フォーラムを開催しました。愛染堂では尾高惇忠が揮毫した奉納額を中央に据え配置し、会冒頭の指定書の交付後、講演「愛染堂と絹産業遺産群—尾高惇忠筆の奉納額から捉える地域の文化—」、一筆会(会主・奥崎一枝)による箏曲演奏(写真)を行いました。フォーラムには約100人が来場されました。(山下)



◇日本酒「二上 晴湖」の完成

日本を代表する女性南画家・奥原晴湖の歴史と偉業を伝える「晴湖の道保存会」が、日本酒「二上 晴湖」の記念発売を開始しました。

奥原晴湖は熊谷市上川上地区で晩年を暮らし、今年開催されるラグビーワールドカップ2019™の試合会場となる熊谷ラグビー場に近接する場所に画室を構えていました。同会は、2018年に龍淵寺で晴湖及び門下生の展覧会・講演会を開催したことを契機に、「晴湖」の名を冠した日本酒販売を企画し、この度実現しました。ラベルの揮毫は晴湖の直筆を用いて、江南文化財センターが協力、デザインを担当しました。(山下)



◇群馬テレビ「ぐんま！トリビア図鑑」で妻沼小島を紹介

群馬テレビの地域情報番組「ぐんま！トリビア図鑑」に熊谷市妻沼小島地区が取り上げられました。群馬県と埼玉県の間にある利根川ですが、「飛び地」をテーマに、利根川の北側にある埼玉県と、南側にある群馬県の地域がフォーカスされました。現在は休校中の小島小中学校などで撮影があり、妻沼小島地区の歴史的経過、地域に根付いた文化や自然などが紹介されました。(山下)



【文化財探訪 鶴巻・池上遺跡(池上地区ほ場整備事業地内遺跡発掘調査)】

平成30年度から2か年にわたり、市内池上地区のほ場整備事業に伴い、鶴巻・池上遺跡の発掘調査を実施しています。昨年度調査した鶴巻遺跡の主體的な時期は、古墳時代前期で概ね4世紀代と考えられ、1か所の沼跡からは木製品(槽(そう)・弓・鋤(すき)等)の遺物が出土し、水辺の祭祀を行った後に水中に投げ入れられた可能性が考えられます。また、周溝が全周する方形周溝墓が2基確認され、周溝の隅からは古墳時代前期に帰属する甕が複数出土しました。そのうちの1点には外面に煮炊きの使用痕、内部から炭化米が確認されました。また、付近の土坑からは田下駄も出土していることから、この周辺では稲作が行われていたものと推定されます。

池上遺跡では、古墳時代後期を中心に古墳時代、奈良・平安時代に帰属する遺構・遺物が確認されました。木製品が多数出土し、検出された掘立柱建物跡の柱穴の底部からは、掘立柱の沈下防止のための礎板が確認されています。また、弥生時代中期後半の土器棺墓の壺がほぼ完形の状態で出土しており、当時の墓制を知る上で大変貴重です。(腰塚)



【写真左：かざり弓 右：鶴巻遺跡出土状況】

文化財コラム 「上中条出土巫女埴輪」の再発見

熊谷市の埴輪といえば切手に使われている「馬形埴輪」があります。明治時代に上中条地内から出土し、市内の政治家・文化人として活躍した青山の根岸武香により蒐集保存され、現在は東京国立博物館に収蔵されています。好古家としても知られた根岸は広く利用を図ったことから様々の図書や展示会にも紹介されてきました。埴輪本体も優れた表現を評価され「国重要文化財」に指定されています。

実は、この埴輪発見地とされる古墳の形や規模など実態はほとんど不明です。当時の記録では、いくつかの古墳の開墾の度に、人物や馬形などの埴輪が掘り出されたようです。明治初年の埴輪発見に際しては話題になり、見物に訪れた根岸の表現では掘り出された埴輪が「ひな人形が並び」ように壮観だったと伝えています。この時の上中条発見の埴輪は人物・馬形の12体ほどのようですが、現在確認できるの7体ほどと思われます。発見から約150年を経過し、当時を知る人はなく、現地の風景も一変するなど環境の変化が大きな原因のひとつです。

そんな中、今春新たに「巫女埴輪」の発見がありました。所蔵者の方から由来をお聞きし現物の埴輪を確認すると、上中条の人物埴輪に共通する表現が見られ、使われた粘土や焼き上がりも同様です。この「巫女」はやや小ぶりですか、張りのある顔だち、シャープに開かれた杏仁形の目、薄く貼り付けた眉、整った鼻筋に加えた鼻孔、浅く開いた唇、弧状の耳を持っており歳若い女性の趣があります。そこから受ける印象により他の上中条の埴輪と同一の製作者と思えます。発見時期も他の埴輪と同一時期と考えられることから、再発見として江南文化財センター内の展示にてお知らせしました。

なお、まだ知られていない人物埴輪や全く出土が確認されていない円筒埴輪など未だ地上や地下に埋もれている資料の存在が想像されます。今回の再発見報告に続く新たな再発見を願うものです。今回、情報を提供いただいた所蔵者の方には深く感謝するとともに、上中条古墳群や出土埴輪について継続して調査・研究を進めたいと思います。上中条出土埴輪についてまとめた参考資料は【熊谷デジタルミュージアム 読書室『上中条出土武人埴輪と巫女埴輪』】に掲載しています。(新井)



【マニアックな文化財メモ】「E・ヴァイニング氏の足跡」

昭和24年(1949)12月29日、少年時代の上皇陛下の家庭教師を務めていたエリザベス・ヴァイニング氏が、熊谷市中西の歌人であり農家の棚澤慶治氏邸を訪れています。これは日本の農家や習俗の状況を視察するためのもので、迎春に向けての餅つき風景などを見学しました。この経験はヴァイニング氏の『皇太子の窓』にも詳しく記されています。後に、ヴァイニング氏は棚澤氏に「with best wishes and in memory to bright winter morning at the Tanazawa farm Elizabeth Gray Vining」(晴れた冬の朝の棚澤家の思い出に)という筆記録を残し、この刻印と、棚澤氏が詠んだ「わが家に今年収穫れたる胡麻もちて帰国直前の夫人訪ひゆく」などの短歌を刻んだ歌碑(写真)が昭和42年(1967)に棚澤邸の庭に建立されました。本年は「平成」から「令和」への改元年であるとともに、ヴァイニング氏が熊谷を訪れて70年目に当たります。(山下)



編集後記

令和元年(2019)の百年前である大正8年(1919)、熊谷では熊谷中学(現熊谷高校)の美術教師、大久保喜一氏を中心に埼玉県初の洋画団体である坂東洋画会が発足し、同年5月には日本聖公会熊谷聖パウロ教会に煉瓦造りの礼拝堂が完成しています。また、同年9月には戦後を代表する俳人で、昨年亡くなられた熊谷市名誉市民の金子兜太氏が誕生しています。熊谷での100年という時間の流れに想いを寄せながら、郷土の歴史や芸術文化を再認識してみたいはいかがでしょうか。新たな元号「令和」の時代も「BUNKAZAI 情報」を宜しくお願いいたします。(山下)



発行：令和元年7月8日(2019/07/08)

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話：048-536-5062 FAX：048-536-4575 メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

ブログ「熊谷市文化財日記」、熊谷観光・文化財ナビゲーションアプリ「くまここ」更新中